

ゴミゼロ型・資源循環型技術研究イニシアティブの推進目標

項目	今後5年間で達成すべき目標	中・長期的目標	
ゴミゼロ型・資源循環型技術研究イニシアティブの全体達成目標	<p>循環型社会形成推進基本法に基づき、廃棄物の減量化目標(2010年度までに1996年度実績を半減化、再生利用率で一般廃棄物24%、産業廃棄物48%)及び有害廃棄物による環境リスクの低減を達成するために必要とされる技術及びシステムの開発を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環型社会への変革を進めるためのシステム開発を、3Rの優先順位に基づいて、環境負荷・エネルギー消費に留意しつつ、適切に評価する手法の開発と試行。 ・ 個別製品のリサイクル技術の実用化 ・ リデュース・リユース・リサイクル及び環境リスクに配慮した製品の設計・生産技術の開発 ・ 循環利用に伴って生じる環境リスクの低減技術の開発 ・ 最終処分場の逼迫状況打開のための廃棄物処理技術の高度化と不適正処理抑制技術システムの開発 ・ 環境上の負の遺産の本格的解消に着手するための技術の確立と低有害性代替製品への誘導と着手 	<p>循環型社会形成推進基本法が目指す循環型社会の姿を実現するために必要な技術を開発するとともに、海外との連携により適切な循環型システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静脈システム(物流、産業)を支える技術の開発導入 ・ 廃棄物の発生特性の変化に応じた適正処理技術・システムの開発 ・ 低有害性代替製品の開発 ・ 循環利用技術・システムの地域社会適用技術の開発 ・ 海外、特に途上国生産における3R技術・システムの導入、環境産業の育成 	
プログラム毎の目標	<p>循環型社会創造支援システム開発プログラム</p>	<p>循環型社会への変革を進めるための技術あるいはシステム開発を、物質循環階層性原則及び低環境負荷原則に基づいて、適切に評価する手法を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT技術を等活用した環境低負荷型設計 / 計画、生産、流通、販売システムの構築 ・ 環境配慮経費の負担者、負担割合、負担方法等に関する国民各層の合意形成手法の確立・3R技術を促進す 	<p>施策の実施状況、国民意識の変化等を踏まえつつ、循環型社会への転換を一層推進するための研究を実施する。製品、システムの循環度の評価継続と国際的規範の確立、国際標準化へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再生品、再生利用品の規格化・基準

項目	今後5年間で達成すべき目標	中・長期的目標	
プログラム毎の目標		<p>る価格体系の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去から現在の物質フロー解析及びモニタリング ・ 物質フローの各プロセスにおけるエネルギー消費・環境負荷率を勘案したLCAをふまえた循環度の評価手法の確立 ・ 再生品、再生利用品の安全性評価手法の確立と規格化 ・ 基準化のための調査 <p>など</p>	<p>中・長期的目標</p> <p>化、国際標準化など</p>
	リサイクル技術・システムプログラム	<p>容器包装廃棄物や使用済み家電、食品循環資源、建設資材廃棄物、使用済み自動車、バイオマス等の個別循環資源に関するリサイクル技術やシステムの高度化・実用化を進めるとともに、リサイクルシステムの基盤となる静脈物流の効率高度化・実用化を図る。また、個別循環資源の特性に応じたLCAの高度化を図る。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別循環資源のリサイクルのための技術の開発・実用化 ・ 個別製品の類型化に基づくリサイクル技術・手法の開発等静脈物流システムの効率化・高度化、産業化 ・ 再生品、再生利用品の安全性向上技術の開発 ・ LCAの再評価、再構築 <p>など</p>	<p>技術開発や社会的取組等の動向を踏まえつつ、個別循環資源のリサイクルのための要素技術の高度化、評価の適正化を推進し、低環境負荷型リサイクルを実現する。</p>
	循環型設計・生産プログラム	<p>下記の3R技術開発を推進し、設計・生産する段階でリデュース・リユース・リサイクル性を一体化させるとともに、有害物質等による環境リスクの低減に配慮した工業製品や食品</p>	<p>モノ作りなど川上での対応と使用済みとなったもののリサイクルなど川下での対応連携のとれた技術開発を行う。</p>

項目	今後5年間で達成すべき目標	中・長期的目標
プログラム毎の目標	<p>循環資源、建設物等を提供する。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リデュース(省資源のための長寿命化・易修理化・軽量化 ・ 生産・建築に係る廃棄物の発生抑制等)を可能とする設計 ・ 建設・生産技術の開発 ・ 使用済み段階でリサイクルやリユース、リプロダクションが容易となるように予め配慮した設計・建設・生産技術の開発 ・ リサイクル、リプロダクション原料やリユース部品等を生産・建設工程に組み込んだ生産・建設技術の開発 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環利用技術・システムの地域社会適用技術の開発 ・ 海外生産における3R技術・システムの導入 <p>など</p>
適正処理処分技術・システムプログラム	<p>最終処分場の逼迫と不適正処理の解消、廃製品や汚染跡地等の負の遺産解消という緊要な課題に対処するための技術及びシステムを開発する。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の減量率の高い超減量化技術の開発 ・ 長期寿命型の最終処分場の設計及び埋立地の再生利用技術の開発 ・ 情報技術を利用した不法投棄監視技術・システムの開発 ・ 有害廃棄物で汚染された処分場や不法投棄等による汚染跡地の安全性評価と修復技術の開発 ・ 有害廃棄物の適正処理を確保するためのモニタリング技術の確立とリスク評価 ・ PCB廃棄物等残留性物質を含む廃棄物の適正処理技術の開発 <p>など</p>	<p>物質循環の繰り返しによる廃棄物の発生特性の変化を把握しつつ、これに対応した循環型社会を支えるモニタリング、廃棄物処分技術及びシステムの開発を行うとともに、有害廃棄物に関する安全安心確保技術の一層の高度化を図りつつ、着実に負の遺産処理を果たす。</p>

ゴミゼロ型・資源循環型技術研究イニシアティブ

資源消費量低減

環境リスク低減

最終処分量低減

循環型社会創造支援システム開発プログラム

物質フロー解析・LCA解析・リスク解析に基づく循環度の評価手法、IT技術の活用

資源採掘

材料生産

製品設計・生産

使用・維持管理

流通・販売

廃棄・リサイクル

循環型設計・生産プログラム

材料生産、設計・建設・生産技術
(リデュース、リユース、リサイクル、環境リスク低減を一体化)

リサイクル技術・システムプログラム

各種循環資源のリサイクル技術
静脈物流システム
再生品、再生利用品の安全性向上技術

適正処理処分技術・システムプログラム

減量化・処分場長寿命化技術
廃PCB等処理・汚染跡地等修復技術
モニタリング技術とリスク評価

上流での対応

下流での対応

物質循環階層性原則

低環境負荷原則